

2009年度

科目名	映像文化Ⅱ			コード	13260
担当教員	羽田 景子				
配当	日文2			コード	13260
開期	後期	講時	月曜日3限	単位数	2
授業テーマ	映画から見るアメリカ社会				
目的と概要	映画はフィクション(作り話)やエンターテインメント(娯楽)に留まるものではありません。本講義では①人種②エスニシティ③戦争④日本への眼差しをテーマに、20世紀初頭から現代にかけてのアメリカ映画を鑑賞します。プロット(筋書き)や登場人物から社会や人々の価値観を読み解くと共に、アメリカという国にとって映画がどのような役割を果たしてきたのかについて学びます。				
成績評価法	学期末に行う試験(60%)＋レポート(30%)＋平常点(授業時の発言、態度など10%)				
テキスト	アメリカ史のなかの人種(世界史リブレット 第Ⅱ期 91)／山田史郎著／山川出版社				
参考書	必要に応じて紹介します。 アメリカの人種問題に関する新聞・雑誌記事を読んでおいてください。				
履修に当たっての注意・助言	授業中に映像を使用することが多いので、私語や携帯電話の使用は固く禁止します。成績評価にも大きく関わるので、注意してください。				
講義計画					
第1回 オリエンテーション ―― ディズニー映画から見えるもの 第2回 アメリカと人種(1) ―― 「国民の創生」と人種 第3回 アメリカと人種(2) ―― 異人種カップルが意味するもの 第4回 アメリカと人種(3) ―― 公民権運動と黒人「ヒーロー」 第5回 アメリカと人種(4) ―― 「ヒーロー」の陰の差別・貧困 第6回 ホワイト・エスニックの映画表現(1) ―― 「白人」内での差別(ヨーロッパ系の人々 ①) 第7回 ホワイト・エスニックの映画表現(2) ―― 民族文化の再評価(ヨーロッパ系の人々 ②) 第8回 ホワイト・エスニックの映画表現(3) ―― 「白人」と「黒人」の間で(ヨーロッパ系の人々 ③) 第9回 アメリカと戦争(1) ―― 太平洋戦争＝「よい戦争」？(ドキュメンタリー鑑賞) 第10回 アメリカと戦争(2) ―― 「パールハーバー」と核の記憶 第11回 アメリカと戦争(3) ―― ベトナム戦争という「トラウマ」 第12回 アメリカと戦争(4) ―― 戦争の「ストーリー化」と「ヒーロー」のいない戦争 第13回 日本への眼差し(1) ―― 危険な国、ニッポン 第14回 日本への眼差し(2) ―― 「ライジング・サン」と「ライジング・エン」 第15回 まとめ ―― 映画と国家・社会の関係					